

東書藝

平成 29 年 4 月

<http://www.toshogei.jp/>

第六十四回 東海書道藝術院展 開幕

創始者である大池晴嵐先生が提唱された「百花百色」を標榜し、中部書壇の中核として歩みを進めてきた東書藝。ここに渾身の作を結集し、その真価を世に問わんとするものである。



会長 風岡五城

春爛漫の候、今年も盛大に第六十四回東書藝展の開幕を迎えることができ大変嬉しく思っています。開催に向けてご尽力いただきました役員はじめ会員の皆様、また関係各位に対し心から厚くお礼申し上げます。

本展出品要項の冒頭に「自由かつ大胆な作品の発表を企画し、もって書壇に新風を送らんとす」のスローガンが高らかに謳われています。本会創立当初からのものと聞いていますが、読むたびに誇らしい気持ちになります。

芸術はすべからく自由でなければなりません。自由の中からこそ新しいものが生まれるのです。

しかし、自由ということは勝手気儘とは違います。日々、書の古典に謙虚に対し、技術を高め精神を養ってこそはじめて可能であることを深く自覚しなければなりません。とはいえ書を始めて間もない方にそれを要求するのも無理があることは十分承知しています。要はそれを心掛けるかどうかが肝心です。

少々気が早いかしませんが、

来年は六十五回の節目の年を迎えます。最近の出品点数減少から転じて増を目指すとともに、内容の益々の充実を期して研鑽に励まれんことを切に願うところです。

大賞・棚橋藍水氏
準大賞・山田芳穂氏

第六十四回展 審査会

第六十四回展審査会は、三月二日・三日の両日、今年も東桜会館にて行われた。部門別には漢字多字数作品がやはり多く、点数は会員・準会員・会友と微減だったが、公募作品に増加が見られて喜ばしい。例によって審査部を中心に周到に運営され、鑑別は厳格で公平公正なものであった。そして、大賞に棚橋藍水、準大賞に山田芳穂の両氏が決定した。

第六十四回東書藝展

各部受賞者名

会員の部

【大賞】

棚橋 藍水

【特選】

【準大賞】

山田 芳穂

【知事賞】

小林 光露

【領事館賞】

伊藤 恵翠

【県教委賞】

加藤 珠香

【中日賞】

今枝 櫻舟

加藤 紅華

【東書藝賞】

神野 富士

稲山 鹿山

鈴木 彩咲

秋田 清蘭

嶋野 緋園

富田 麗水

奥田 康山

大山 湯泉

浅井 紅苞

中村 青桐

竹内 輝芳

【秀作】

犬飼 美華

杉原 弘子

渡邊 翠峰

生田 香春

鈴木 祥風

鎌田 岳風

中野 尚子

磯貝 紫箭

白井 美鳳

矢田 麗華

鈴木 素風

【褒賞】

伊藤 紫香

後藤 翠鳳

佐野 祥林

准会員の部

【市長賞】

水野 白蓮

【県教委賞】

宮田 杏花

【市教委賞】

中根 静流

【中日賞】

吉戸 清華

【東書藝賞】

松尾 華景

杉原 弘子

【推薦】

今井 宗龍

岡部 緑園

安田 琳華

【特選】

佐藤 江月

松尾 芳香

小町谷空山

高橋 雅

山本 春風

西村 麻實

伊神 暁風

北川 栄水

小川 清秋

高木田鶴子

中川 錦舟

富永 奇紳

【秀作】

伊藤壽萬子

鈴木希代美

服部 草心

佐藤 麗光

越山 陶軒

杉浦 真理

根岸 朋華

加藤 素水

奥村 知翠

山本 紅舟

松井 靖泉

小川 胡蝶

吉田 翠紅

田中 愛乃

江場由紀子

河野 光映

岡田 豊苑

伊藤 秀

坂巻 春光

伊藤 蕙翠

今田 春恵

西本 康子

長縄 和子

森 雅竹

【東書藝賞】

増田 孝志

鈴木 清光

中根 冬泉

金谷 典子

平林 利郎

川村 紅葉

水野 陽雲

前田 善恵

川村 大観

石川 明正

今枝祐香里

佐々木治子

渡辺 邦子

大里 紅舟

鈴木 久江

【特選】

加納 曠達

恒川 玲舟

井上 麗翠

伊藤 秀

坂巻 春光

伊藤 蕙翠

今田 春恵

西本 康子

長縄 和子

森岡 紅苑

松浦 白沙

大野 清泉

中川 翠麗

三島 晃

川原 妍月

村田 恵美

熊澤 華香

北河 光春

牧野 友里

近藤 七峰

土屋 百代

今枝祐香里

大岡 央宜

岩橋 道子

荒木 紀柳

松蘭 彩子

齋藤 逢花

西川 順香

伊藤 紫香

豊島 翠苑

渋谷 恵子

水野 華翠

山崎 春霞

菱川 芳香

酒井 翠光

伊藤 露舟

近藤 栄香

鬼頭由美子

斉木 孝子

山田 美溪

公募の部

佐藤祐貴子

竹井 寶山

永井 恵草

【東書藝賞】

清水 玲翠

水野 碧友

浦野 博夫

堀尾 弘美

【推薦】

岩井 玲翠

山口 花扇

堀田 紫泉

増田 晶子

山田なつ湖

堀場 春陽

後藤 綾乃

暮石 知子

鈴木 香石

【特選】

藤堂 秋嶺

小川 月菜

齋藤 秀風

阿久津瞭夏

毛利 春蘭

森本 紗綺

佐藤祐貴子

竹井 寶山

永井 恵草

燕 月花

山中友梨夏

小笠原初江

高根 颯太

伊藤 陽子

堀内 花香

五味 千裕

堀尾 象仙

上田佐智子

山本 理恵

後藤 南星

三輪 啓子

宮崎 美麗

穂浪由美子

原 久子

山口 直子

大竹 直人

宮本 聖堂

八木 信江

永井 麗扇

雄山 瑞祥

大井美沙季

審査員の先生方

審査長

豆子甲水之

会員・准会員の審査員

風岡 五城

久野 北崖

水谷 紅楓

松浦 白碩

山本 晴城

安藤 余香

井浪 幸潭

勝田 晃拓

河野 春園

堀場 仁翠

会友・公募の審査員

井口 清華

岡本 恵園

加山 幽石

近藤 春雪

羽根田葛橋



会場で審査する先生方

'17 東書藝院人研修会開催

平成二十九年の院人研修会が、二月五日（日）に愛知県芸術文化センター十二階のアートスペースにて開催された。



久野北崖副会長の開会の言葉に続き、講話「漢字の成り立ちと歴史」、ビデオ鑑賞「書の道」と今回も二本立ての研修である。書作品をつくる上で必要な知識や心構えを学ぶことができた。尚、参加者総数は百十二名だった。

◇講話

「漢字の成り立ちと歴史」

講師

愛知教育大学名誉教授

野村 茂夫 先生

漢字は一つ一つの文字に意味がある表意文字である。書を書く上で、その漢字の意味や成り立ちを理解していることが大切で、それが出来てよりよい書となる。

(3) 漢字の構成や成り立ちについては許慎（後漢）によって書かれた『説文解字叙』によって知

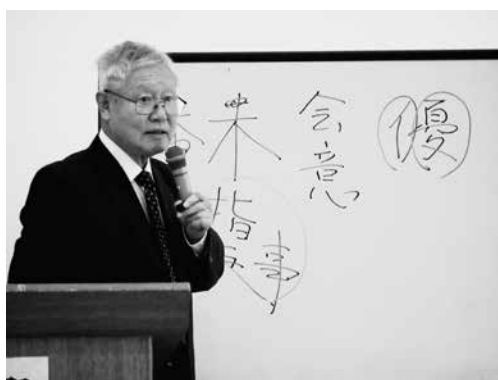
ることができる。その中で六書「指事、象形、形声、会意、転注、仮借」という分類を確定している。例えば、「閑」という字は「門」と「木（しきりの意）」という二つの意味を持った字の組み合わせでできたもので「会意」と呼ぶ。「郷」「既」「即」もご飯を炊く道具と人の様子を組み合わせた「会意」である。「木」の横画より上にしるしがついて「末」、下にしるしがついて「本」のように、伝えたいことを指し示したものを「指事」、イ（にんべん）意味を

表す要素）と憂（ユウ）発音を表す要素）とでつくられたものを「形声」、「間」と「聞」のように発音だけ借りて他の字を代用とするものを「仮借」としてゐる。日本でも漢字の成り立ちを様々に説明するが俗説も多い。例えば「親」という字は木の上に立って子どもを見守るという説明があるがこれは俗説で、本来は位牌などに使う神聖な木を選ぶという意味から親しい人、親を表すようになったとされている。

また、秦の時代には八体「大篆、小篆、刻符（割符に書く字）、蟲書（旗に書く字）、摹印（印に書く字）、署字（額に書く字）、殳字（武器に書く字）、隸書」があった。更に漢代になつて隸書がくずれた草書ができた。『説文解字』は文字学の権威である。しかし、十九世紀に甲骨文字が発見されたことで許慎の知識より五百年ほど古い文字を知ることができるようになり、その結果『説文解字』の二三

割は訂正の必要があると考えられるようになった。

例えば、「王」という字の成り立ちについて、『説文解字』では横画の三本がそれぞれ天、地、人を表し、それを貫くものとして王がいるとされていたが、甲骨文の発見により王の字の原形は「まさかり」の象形であることがわかった。また「東」は日（太陽）が木の中ほどにある様子からできたとされていたが、実際は袋の上下を結んだものの「囊」と発音が共通していることが字源で、このように字に



(4)

表しにくいものは音を借りてつくられた。「無」「朕」「吾」「我」等も同様である。

その他に「憂」は喪中にあつて愁える人の形に、心を加えた形、「夏」は儀容を整えて舞う人の形、「麦」は麥とつくり、下の部分は麦ふみをあらわすものと考えられている。

『大漢和辞典』は『説文解字』に基づく説明がされているので字源を調べる際、注意すべきである。

このように漢字の成り立ちは調べてみると非常に興味深いものである。作品づくりにおいて、画家は人を描く時は人体の骨格から学ぶといわれているが、書をする人は字の成り立ちを知り、文章をしつかり理解した上で取り組むと一層立派な字が書ける



◇ビデオ鑑賞

「書の道―映像でつづる中国書道の旅」

「書の道」シリーズの第二巻「山東摩崖と史跡」。

鄭道昭（南北朝時代・北魏の官吏）らによる摩崖刻石の貴重な映像を鑑賞した。円筆と方筆をうまく取り混ぜた北魏様式の古典を学ぶ上で参考となった。

17今日の書展開催

平成二十九年一月四日から九日まで、愛知県美術館ギャラリーで「今日の書展 三十回記念展」が開催された。東海地方の四つの書道団体の会員が出品する本書展は、多種多様な作風に彩られ、総数二七五点が展示された。

書展は今年で三十年目を迎え、記念として、構成四団体の、創設に尽力したバイオニアである先達十二人に敬意を表し、特別展示が行われた。

四日には、ホテルメルパルク名古屋（東区）で祝賀会が開催され、出品者による交流が行われた。



会に先立って「アルゼンチンタンゴダンス」の



特別展示作品前で

披露があり、本場の情熱的なダンスに魅了された。

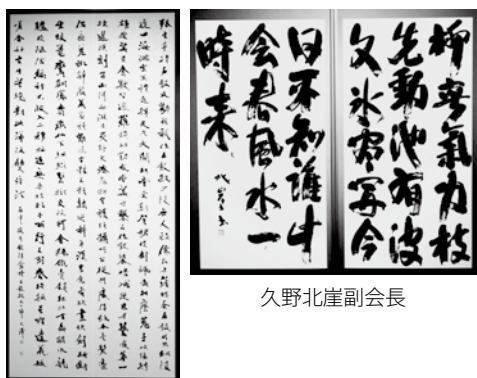
挨拶では玄書作院の久保田関山先生より書展三十年の歴史が語られた。構成する各派が持ち回りで代表を務めるという画期的な書展の結成にあたり作成された「趣意書」も紹介され、中部圏の書道の発展を担う本展の意義を改めて感じさせられた。

第五十二回 新春東書藝代表作家展

平成二十九年一月二十四日、二十九日、名古屋市民ギヤラリ一栄に於いて、恒例の代表作家展が開催された。幹部・常任理事から四十二点の展示。今年は事情で会場の変更があったが、出品者の志気は高く、意欲溢れる大作が並んだ。作家それぞれが、古典に則った上で個性を発揮していて、東書藝らしく各書体・バラエティに富んだ、大いに楽しめた展覧だったと思う。尚、会期中の観覧者数は、千三十一名であった。



豆水甲名譽會長



久野北崖副會長



安藤清舟副會長



福岡五城會長

木村大澤理事長

第四十回公募梓会書道展開催

勝川香艸会長、伊藤春魁理事長両先生が力強く率いる梓会。記念の特別展示もあった四十回展の思いを、ここに熱く寄せて下された。

四十回展を終えて

三月七日、十二日、愛知県美術館ギヤラリに於いて、第四十回梓会書道展を開催することができました。先師勝川香雲先生が他界され十三年、歳月の流れの速さに驚くばかりです。師の教えを継承しつつも時代に即応する作品を奨励し、現会長勝川香艸のもと、牛歩の如くではありますが着実に歩みを続けております。

さて、四十回展は会員の和が広がり出品点数は昨年より多い一八〇点を数えました。またU23部門を設けたことによる若手の台頭。そして師が力を注いだ「高齢の方も大作に挑める環

境と意識づくり」とが相俟つて、老若男女が楽しく学べるようになってきたと喜びを感じずにはいられません。

今後も諸先生のご指導を仰ぎ、師系である田中塊堂先生、伊藤鳳雲先生の「大字かな」の本流を学べる恩恵に感謝と幸せを感じ精進してまいります。会期中、多くの先生方にご来場いただき有難うございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(伊藤春魁)



TOPICS

劉作勝書画展

平成二十九年二月七日～
十二日、昨夏研修で講演頂
いた愛知学院大学准教授・
劉作勝先生の書画展が、栄
サンシティギャラリーで開
催された。高い文人的な教
養と道徳が求められるとい
う「書画同源」の考え。そ
の表現・思想の発表が主題



とお話しされた作品四十八
点が並ぶ。格調高い書と画
が自然に響き合う心地良さ
に、感服した展覧だった。

肝心肝文 落款

今展審査会の折、落款につい
ての指摘があった。次の誤りに
注意したい。

▼臨書と創作の別の誤り

臨書であるのに○○臨とせず、
○○書とした。

▼録と書の重複

録○○を、録○○書とした。

▼印のみで署名がない

現代的なものとは別として、伝統
的なものには署名+印を。

落款は作品の価値にも影響す
る重要なもの。正しく記して、
目指す表現の完成としたい。

社中の歩み

◇第32回景雲社「絆」書道展

会期 28年12月7日～18日

主催 景雲社（勝田晃拓）

◇第33回花墨会展

会期 28年12月10日・11日

主宰 松岡麗泉

◇第40回公募梓会書道展

会期 29年3月7日～12日

主催 書道研究梓会

（勝川香艸・伊藤春魁）

◇第八回幽石書道会展

会期 29年3月9日～14日

主催 幽石書道会（加山幽石）

◇葵友会小品展

会期 29年3月24日～26日

主催 葵友会（鈴木礼美）

今後の予定

◇第39回宏道書会選抜展

会期 29年5月16日（火）～21日（日）

会場 栄サンシティギャラリー

主催 宏道書会（山本晴城）

◇第30回麦積書展

会期 29年6月7日（水）～11日（日）

会場 岡崎市美術館2F

主催 麦積会（今井麦苑）

◇平成29年度東書藝総会

期日 29年6月18日（日）

会場 中電ホール

◇第24回無名會書展

会期 29年6月27日（火）～
7月2日（日）

会場 名古屋市民ギャラリー栄8F

主催 無名會（渡辺清香）

◇第59回新道書道会展

会期 29年6月30日（金）～
7月2日（日）

会場 四日市市文化会館

主催 新道書道会（豆子甲水之）

◇'17心象展

会期 29年7月11日（火）～17日（月）

会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 好日社（岩田冬崖）

◇'17「今日の書」代表作家展

会期 29年7月18日（火）～24日（月）

会場 中日ギャラリー

主催 中部圏書芸作家協議会

中日新聞社

中日新聞社

中日新聞社

中日新聞社

中日新聞社

◇古稀陶山書展

会期 29年7月18日（火）～23日（日）

会場 ギャラリー池下2112

主宰 尾関陶山

◇第7回稻香印社展篆刻と書

会期 29年7月25日（火）～30日（日）

会場 名古屋市民ギャラリー栄8F

主催 稻香印社（梶田稲州）

◇第43回宏道書展

会期 29年8月22日（火）～27日（日）

会場 電気文化会館5Fギャラリー

主催 宏道書会（山本晴城）

◇第60回游心書展

会期 29年9月5日（火）～10日（日）

会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 游心書道会（松浦白碩）

◇第51回碩山書院一門展

会期 29年9月9日（土）～10日（日）

会場 蒲郡市民会館東ホール

主催 碩山書院（大竹翠葉）

全振興会

編集後記

▽第64回展入選入賞の方々に、
心よりお祝いを申し上げます。
▽院人研、今日の書展は堀江が、
他は加藤が担当しました。

平成二十九年四月 第一三二号

発行 東海書道藝術院
編集 加藤松亭

堀江龍舟